

ひ し き あ き ら こ

菱木晃子氏講演会

『アストリッド・リンドグレン再発見』

岩波書店から新訳・新装版シリーズ「リンドグレン・コレクション」が刊行されました。このうち、『長くつ下のピッピ』シリーズ、『名探偵カッレ』シリーズ、全6巻の翻訳を手掛けられた菱木さんから、リンドグレンの魅力とは何か、おはなしいたします。



と き 10月23日(土) 13:00~15:00

ところ 益田商工会議所 3F 大会議室

講 師 菱木晃子氏 (北欧児童文学翻訳家)

定 員 80名 (要事前申込)

場所が変更になりました

【講師 プロフィール】

1960年東京生まれ。慶應義塾大学卒。スウェーデンの児童書を中心に翻訳家として活躍。訳書に、ラーゲルレーヴ作『ニルスのおしぎな旅』(福音館書店)、トール作『ステフィとネッリの物語』(新宿書房)、スタルク作『おじいちゃんの口笛』(徳間書店)など多数。2018年から「リンドグレン・コレクション」の翻訳を手掛ける。2018年、日本・スウェーデン外交樹立150周年記念『長くつ下のピッピの世界観』を監修。2019年公開の映画『リンドグレン』の字幕監修。2009年、スウェーデン王国より北極星勲章受章。



「長くつ下のピッピ」
アストリッド・リンドグレン作
イングリッド・ヴァン・ニイマン絵
菱木晃子訳(岩波書店)



「名探偵カッレ 城跡の謎」
アストリッド・リンドグレン作
平澤朋子絵
菱木晃子訳(岩波書店)



新訳を出すということとは

「ピッピ」と「カッレ」の新訳に取り組んで

菱木晃子

(略)

リンドグレン作品は、作風の幅も広く、実に面白いものが多いのですが、昨今はあまり日本の子どもたちから支持されず、図書館によっては、すでに閉架になっている本も少なくない状況でした。理由としては、装丁や訳文が古めかしく、今の子どもたちに響かない、子どもの本に携わる周りの大人も薦めにくい、ということが挙げられるかと思います。このままでは、いずれ、その作品の多くは忘れ去られてしまう・・・と危機感を募らせていたところ、2018年の年明けに、岩波書店から、「リンドグレン・コレクション」と銘打った、新訳・新装版シリーズの話をいただいたのです。

(略)

単語レベルでいえば、大塚勇三訳の「ピッピ」では『味つきパン』、尾崎義訳の「カッレ」では『甘パン』となっていたものは、新訳では『シナモンロール』としています。こんな訳語にも、時代の流れが感じられるのではないのでしょうか。言葉は生き物です。いつか私の訳が古くなる日もくるでしょうが、それまで一人でも多くの子どもたちに、「ピッピ」や「カッレ」の物語を楽しんでもらえれば、まことに嬉しい限りです。

『こどもの図書館』2021年4月 Vol.68 (児童図書館研究会)より

主 催 : 益田市教育委員会

共 催 : しまね子どもの読書等推進の会益田支部

問合せ : 益田市立図書館

Tel 0856-22-4222

Fax 0856-31-0290

申込み : 電話、または裏面の申込用紙にて Fax で



※ご参加の際には、マスクの着用をお願いいたします。

また、感染症の流行等により、急遽中止または定員の変更がある場合があります。